



一朗読
鈴木玉能
すずき たまの

音楽家、演出家。東京生まれ。宮城学院女子大学を経て慶応義塾大学哲学科に進む。1990年より朗読と音楽のコラボコンサート始める。1994年にはサントリーホールにて五世常盤津文字兵衛と三味線とピアノのための作品のピアノ初演演奏を手がけるなど幅広い音楽活動を展開。夏目漱石を語る「夢十夜」コンサートではバリ公演も成功させた。また仙台市の委嘱による、芝居台本の書下ろし、ヴァイオリニスト古澤巖のCDライナーノーツの執筆など、文筆活動も積極的に行っている。東日本大震災以降、被災動物救済活動及び音楽教育支援活動、ミュージカル制作・演出に携わるなど、多方面で活躍している。



一演奏
半澤文恵
はんざわ ゆみえ

仙台市出身。ピアノ教師。鈴木玉能氏の朗読と演奏のコラボレーションに数多く参加している。2006年には「夢十夜」の第四夜バリ公演でも共演。仙台市の委嘱を受け「動物慰霊祭」の自作曲も演奏する。現在カワイ音楽教室講師、並びに音楽教室を主宰し子供から大人まで音楽の楽しさを伝えている。



穴澤 賢
あなざわ まさる

絵本原作者、フリーライター。1971年大阪生まれ。2005年、愛犬との日常をつづったブログ「富士丸な日々」が話題となり、その後「セイヤコ」を執筆するようになる。著書に「ひとりと一匹」（小学館文庫）、愛犬の死から一年後の心境を語った「またね、富士丸」(「世界文化社」)、2012年には、実話をもとにした猫の絵本「明日もいっしょにおきようね 捨て猫、でかおのはなし」(「草思社」)を手がける。その他音楽分野では自ら選曲したコンピレーションアルバムとエッセイをまとめたCDブック「Another Side Of Music」(ワーナーミュージック・ジャパン)などがある。



泉 悦子
いずみ えつこ

映画監督。早稲田大学第一文学部演劇専修卒業。1987年、「シマジヤナル」創刊。1992年、テス企画設立。1998年、ニューヨーク大学映画学科に短期留学。2006年、映画「ニューヨークで暮らしています彼女たちがここに理由」完成。2007年、映画「心理学者 原口鶴子の青春」100年前の「コロバ」大留學生が伝えたかったこと(山路ふみ子映画賞福祉賞受賞)完成。2011年、映画「エクレールお菓子放浪記」の脚本執筆。2014年、映画「みんな生きていく」飼い主のいない猫と暮らして」完成。2015年、アニメ映画「夢は世界を駆けめぐる海外技術開発のバイオニア」(土木映画コンクール最優秀賞受賞)総監督。



亀田由香利
かめくら ゆかり

元・仙台市動物管理センター所長。1979年、東京農工大学卒業、同年4月、仙台市役所に獣医師として採用。その後、仙台市食肉衛生検査所、農政課、八木山動物公園、衛生研究所を経て、2005年〜2016年3月まで動物管理センターで動物愛護業務に携わる。2016年4月から、(公財)仙台ひとまち交流財団仙台市片平市民センター・児童館館長。



安倍淳子
あべ じゅんこ

「いのちのりレー☆アニマルサポート」代表。宮城県の動物愛護推進委員会に任命。10年間東松島市を拠点に、保健所から里親が見つからない犬猫、遺棄された犬猫を保護し、里親探しをする。現在、泉ヶ岳に猫の里親サロン兼シェルターを開設し、活動を継続している。動物と触れ合う楽しいひとときを過ごして欲しいとの思いでサロンを展開中。公式ブログ「殺処分ゼロ!いのちのりレー☆アニマルサポート」(<http://inochirelay.blog.fc2.com>)



佐藤美紀
さとう みき

「愛すべき野良猫の会」代表。1964年生まれ。仕事をしながら、個人で地域猫ボランティア活動TNR活動(トラップ・捕獲・ノックアウト・不妊去勢手術/リターン元)の場所に戻す活動を10年にわたって継続している。地域猫から家猫となった30匹と自宅で生活している。公式ブログ「招き猫は福を呼ぶ」(<http://myamyai23.jugem.jp>)

小さないのちを 考える

ライブ文学館 VOL.16

絵本朗読 &
映画上映 &
トークライブ



2016 9/30(金) 18:00開演 (17:30開場)
せんだいメディアテーク
7階スタジオシアター

第1部 18:00~18:25



『明日もいっしょにおきようね
捨て猫、でかおのはなし』
朗読と演奏の共演

朗読
鈴木玉能
(音楽家・演出家)



鈴木 玉能

演奏
半澤文恵
(カワイ音楽教室講師)



半澤 文恵

第2部 18:25~19:55



映画
「みんな生きてる
～飼い主のいない猫と暮らして～」
家族のように大切にされる
飼猫と、人知れず生まれ、
人知れず死んでいく野良猫。
同じ猫なのに、なんでなの?

監督・脚本・撮影・編集／泉悦子
音楽／カラーコードミュージック 金子文郎
協力／NPO法人地球生物会議(ALIVE)ほか
企画・製作／(有)テス企画 2014年 91分 HDV カラー ステレオ

第3部 19:55~20:30 トークライブ

- 泉 悦子 (映画監督)
- 穴澤 賢 (絵本原作者・フリーライター)
- 安倍 淳子 (「いのちのりレー」代表)
- 佐藤 美紀 (「愛すべき野良猫の会」代表)
- 亀田 由香利 (元・仙台市動物管理センター所長)



泉 悦子



穴澤 賢



安倍 淳子



佐藤 美紀



亀田 由香利

主 催 | 公益財団法人 仙台市市民文化事業団 | 企画・構成 | 仙台文学館 | 協 力 | 仙台市動物管理センター(アニマル仙台)

仙台文学館



(公財)仙台市市民文化事業団
仙台文学館
<http://www.sendai-lit.jp>

〒981-0902 仙台市青葉区北根2-7-1
TEL:022-271-3020 FAX:022-271-3044

仙台文学館 ～秋の展覧会～
特別展「にゃんてったって猫～猫と人間の物語～」
2016年 9月10日(土)～11月6日(日)

※再生紙を使用しています。この冊子は「雑がみ」として分別してください。

明日も
いっしょに
おきようね
捨て猫、
でかおの
はなし



これは、2009年に岐阜県内のある保健所で実際にあった話です。……でかおは、たまたま奇跡的に助かったけれど、それ以外のたくさんの犬や猫は、死んでしまうのです。

……別に無理して犬や猫を飼う必要なんかないのです。だけど、一度飼うと決めたのなら最後まで面倒を見る。それさえみんなが守れば、この(殺処分)問題は大きく変わるような気がするのだけれど。

でかおの不思議なエピソードからできたこの本が、不幸な犬や猫を、少しでも減らすきっかけになってくれることを願います。

『明日もいっしょにおきようね 捨て猫、でかおのはなし』
「あとがき」穴澤賢

映画
「みんな
生きている」
飼い主のいない
猫と暮らして



家族のように大切にされる飼い猫と、人知れず生まれ、人知れず死んでいく野良猫。同じ猫なのに、なんでなの？

野良猫は、実は、飼い主に捨てられたか、不妊・去勢手術をしないまま家と外を行き来していた猫と、その子どもたち。人が見捨てた猫たちなのです。



エビが来て5年目、庭に迷い込んだ野良猫シマを保護しましたが、回虫、瓜実条虫とあらゆる虫を外へ排出しました。野良猫の食生活のすさまじさ、生き抜くためにどれだけ戦ってきたのかと小さなメス猫をみて感心したものです。さらに4匹目に保護したオス猫、クロがエイズ、白血病のキャリアだったのも衝撃でした。母子感染でなく飼い主のいない猫になってから、喧嘩か交尾で感染したのだろうと獣医が教えてくれました。去勢手術をしていれば、喧嘩も交尾もなくキャリアにならなかったかもしれません。

このクロを外に戻さず自分で育てようと思ったときに、野良猫の基礎知識を映画にして皆に知らせなくてはと思いました。……

ニャンニャンとして猫は幼児の頃から親しまれています。でも成猫になると、擬人化した可愛いペットか、汚い迷惑猫のようになります。あのニャンニャンとしていとしく思う気持ちはどこへ行ったのでしょうか。なぜそうなったか、なぜ増えるのか、本当に汚いのか、どんな動物なのかなど、その一歩先の知識はあまり知られていません。元気でまだ生きられるものも含め、年に10万匹以上の犬猫が行政の手で二酸化炭素のガス室で命を絶たれることもあまり知られていません。町の野良猫を見たときに、この映画を思い出していただければ嬉しいですよ。

○監督・脚本・撮影・編集／泉悦子 ○企画・製作／(有)テス企画 2014年 91分 ドキュメンタリー カラー ステレオ

協力

○NPO法人地球生物会議(ALIVE) ○東京都動物愛護相談センター ○NPO法人ねこだすけ ○「猫のゆりかご」(国上市)
○練馬区保健所 ○「人と猫の共生をめざす会」(練馬区) ○「南中野地域ねこの会」(中野区) ○「愛すべき野良猫の会」(宮城県)
○バトンタッチ(宮城県) ○モコ(moco)どうぶつ病院 ○ハナ動物病院 ○NPO法人ゴールゼロ
○Feral Cat Coalition of Oregon(FCCO)/TNRの拠点クリニック
○Multnomah County Animal Services(MCAS/行政動物シェルター) ○Tierhiem Berlin(ヨーロッパ最大の動物シェルター)

寒い冬のある月曜日。
いつものようにノリコさんが来てみると、
一匹の猫がいました。
とても大きくて、
ちよつと怖い顔をした、
青い目のオス猫でした。



「できれば、うちに連れて帰って
やりたいんだけど」
でも、ノリコさんの家には
もうたくさんの猫たちがいます。
それに、ここに集まる犬や猫を、
みんな連れて帰ることはできません。



ノリコさんは、
でかおを抱き寄せました。
「おなかいっぱいになった？
どこか痛いところはない？
つらくはない？
どう？
あたにかいでしょ？
いいんだよ、ゆっくりおやすみ」
語りかけると、
でかおは安心したように
ゆっくりと目を閉じました。
つられるように、
ノリコさんもいつの間にか
眠ってしまいました。



(『明日もいっしょにおきようね 捨て猫、でかおのはなし』より)